

平成十六年度 冬季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「冬」

期間 平成十六年十一月一日～平成十七年一月末

投句数 二、六九九句

特選三句

天

踏切を待つ間も小春日和かな

神奈川県川崎市 市東晶子

地

段葛一直線の寒さかな

神奈川県横浜市 山下省三

人

大寒の水平線に乱れなし

東京都世田谷区 中村芳子

入選二十句

海荒れて三日の浜に富士淡し

神奈川県逗子市

佐藤信子

谷戸奥の寺の日溜り冬桜

神奈川県鎌倉市

村関昭代

山門を入りて浄土へ冬の蝶

神奈川県横浜市

細田かほる

冬麗をよぶ鎌倉の鳶の笛

神奈川県横浜市

小島治彦

ゆく年や政子の墓にしばし佇つ

愛媛県西条市

岡田貞子

鎌倉の先づは寿福寺冬うらら

福岡県福岡市

江藤豊子

短日の文学散歩急くまじく

東京都小金井市

石川明子

鎌倉や非運の宮の冬紅葉

福島県双葉郡

松本哲夫

白ひ立つ落葉を踏みて立子展

神奈川県川崎市

三枝静代

抜け径の一つは海へ神の留守

神奈川県横浜市

菅原文子

藁苞に座禪の如く寒牡丹

神奈川県茅ヶ崎市

秋元重久

禪寺の一塵もなき寒日和

神奈川県川崎市

岸美知子

作務僧と朝の挨拶寒椿

神奈川県横浜市

柳沢栄蔵

鎌倉は長谷寺よりの初明り

神奈川県鎌倉市

岡田昭

波一つ音ともならぬ恵方かな

千葉県松戸市

高瀬恭二

師に出合ふ鎌倉駅や松の内

東京都稲城市

小川美津子

ここよりは若宮大路冬木の芽

東京都世田谷区

大塚芳恵

どこも絵になる鎌倉の小春かな

神奈川県三浦郡葉山町

沼田重吉

冬ぬくし胡蝶の舞も鶴ヶ岡

東京都板橋区

渡辺里佳

日だまりの話も弾む木瓜の花

神奈川県海老名市

浜元孝司

(順不同)